

試聴会・訪問記収載

シマムセン第3回真空管アナログ試聴会 2025 報告 (2025.6.21)

—第1週—

1. はじめに

シマムセン CYMA で開催された第3回真空管アナログ試聴会 2025 に行ってきました。

2. 開催要項と使用機器

開催スケジュールなどは下記のとおりです。



真空管・アナログ試聴会 2025 第一週 6月21日(土) 10:30~18:30				
	ブースA	ブースB	ブースC	ブースD
10:30	エレクトリ			
11:00	10:30~11:30			
11:30			LUXMAN	
12:00			11:30~12:30	
12:30		タクトシュトック		
13:00		12:30~13:30		
13:30				YAMAHA
14:00				13:30~14:30
14:30	フューレン			
15:00	14:30~15:30			
15:30			TRIODE	
16:00			15:30~16:30	
16:30		ヒノエンタープライズ		
17:00		16:30~17:30		
17:30				D&M
18:00				17:30~18:30
18:30				
19:00				

6月21日(土)のプログラムのうち、エレクトリ、Luxman、タクトシュトックのデモに参加しました。

エレクトリの使用機材

アナログプレーヤー stst MOTUS II DQ

トーンアーム EMT EMT909

カートリッジ EMT TSD MRB

真空管プリアンプ McIntosh C2800

真空管パワーアンプ McIntosh MC1502

スピーカー Revival Audio ATALANTE 7 Evo



Luxman の使用機材

アナログプレーヤー LUXMAN PD-151 Mk II
MCカートリッジ LUXMAN LMC-5
フォノイコライザー LUXMAN E-07
LUX真空管コントロールアンプ LUXMAN CL-38uC
プリメインアンプ LUXMAN L-505Z
真空管ステレオパワーアンプ LUXMAN MQ-88uC
CDプレーヤー LUXMAN D-03R
クリーン電源 LUXMAN ES-1200
スピーカー FOCAL Kanta No.2
スピーカー FOCAL Aria Evo X No.2



タクトシュトックの使用機材

アナログプレーヤー VERTERE MG-1 PKGMK2
MCカートリッジ VERTERE MYSTIC MC
真空管フォノイコライザー CANOR ASTERION V2
真空管プリメインアンプ CANOR A1 1.10

スピーカー Fink team KIM



3. 試聴会の経過

エレクトリのデモは次のように進行しました。

カラヤンのマーラー5番は、この種の試聴会では、珍しく大編成オーケストラの試聴で、オーソドックスなオーケストラらしい音でした。

カーペンターズの Sing は、カレンの歌唱がナチュラルです。

次のロックとジャズの 45 回転盤はクリアで、キース・ジャレットのケルンコンサート盤はクリーンで透明度の高い音でした。

終了後、好感が持てた EMT のカートリッジについて情報を得ましたが、インピーダンスや線材などいろいろなバリエーションに対応できるということでした。

<https://www.electori.co.jp/EMT/>

また、アームに関して VTA やアジマスの調整について説明を受け、アジマスと L/R の位相差の関係やイコライザーカーブなども知識や経験があることが分りました。レベル毎のイコライザーカーブなどは、市場でそこまで要求がないとのことでした。Luxman のデモは次のように進行しました。

最初は女性ボーカルのアナログ、ついでジャズの CD、さらにアルゲリッチのモーツアルトのピアノ協奏曲 25 番のアナログでしたが、女性ボーカルはまずまずとしても、ジャズは騒がしく、アルゲリッチのモーツアルトはモーツアルトのらしさがなく、ここで中座しました。

タクトシュトックのデモは次のように進行しました。

最初はエレクトリのデモでもかかったキース・ジャレットのケルンコンサートでしたが、エレクトリの場合に比べてソフトタッチで鮮度感が若干後退していました。

サックスとピアノのジャズは、菅野録音でソフトな音のジャズです。

バルバラのシャンソンはナチュラルであり、鮮度感もありました。

谷村新司の唄は平凡でしたが、ビートルズはハーフスピードカッティングのリマスター盤、続くギターのロック 45 回転盤で、ともに鮮度感がでていました。

ディーラーとしては、ナチュラルで聴きやすい機器を選択しており、輸入先のメーカーとはビジネスライクにならないよう、コミュニケーションを重視しているとのことでした。VERTERE や CANOR の開発姿勢についての説明もあり、VERTERE の軸と軸受けの精度については実物を用いての説明がありました。

4. まとめ

三つのデモとも個性のあるデモでしたが、アナログ再生に関しては、海外のハイエンドシステムに歩があり、特に EMT のカートリッジの表現力を好ましく感じました。

以上